

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

ワークショップ 33	
企画名	患者ケアの質向上と医療者間コミュニケーションを劇的に向上させる看護師ポケットエコーの活用法と学習法
日時	2017年5月14日(日) 13:45～15:15
会場	第4会場 (サンポートホール高松 ホール棟 6F 61会議室)
企画責任者	並木 宏文 (公益社団法人 地域医療振興協会 与那国町診療所)
定員	72名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 パソコン機器が「デスクトップ→ノートパソコン→スマートフォン」と進歩し、日々生活で自然に使い分けられているように、エコーも「検査室の設置型→外来の移動式→ポケットエコー」と同じ道を辿った。つまり、ポケットエコーの目的は「その場で手軽にちょっと確認」である。薬事法上は電子血圧計と同じ分類のエコーは、既に看護師・薬剤師・鍼灸師・一般人にも使用される大衆医療機器となった。その中、Mirucoを代表とする超低価格ポケットエコーが登場し、エコー初心者でも即役立つ膀胱エコーの教育コース Pocket Echo Life Support (PELS) が開設され、看護師がポケットエコーの活用を通じて、患者ケアの質と医療者間のコミュニケーションを劇的に向上させ始めた。具体的には、膀胱エコーによる排尿管理(例：膀胱カテーテル管理、残尿確認による就寝前のトイレ誘導)を中心に、肺エコーによる誤嚥性肺炎の管理、頸静脈・下大静脈エコーによる体液管理、食道エコーによる経鼻胃管の確認など、看護ケアへの活用が進んでいる。</p> <p>【概要】 【パネルディスカッション】 ポケットエコーを積極的に活用している医療者(医師 Dr 5名、看護師 Ns 5名、検査技師 Mt 1名)が発表する。 小林只 Dr 「ポケットエコー総論 診断から判断へ」 山口睦弘 Mt 「PELS 教育コース」 上野美幸 Ns 「病棟での活用と課題：医師と連携方法」 平野貴大 Dr、岡村奈保子 Ns 「看護師のエコー活用を促す工夫」 落合実 Ns 「都会の訪問看護ステーションでの活用：遠隔地・医療機関との連携」 並木宏文 Dr、大崎久代 Ns 「離島における看護師エコーの現状」 紅谷浩之 Dr・里裕一 Ns 「エコーは多職種コミュニケーションツール」 中野智記 Dr 「地域包括ケアシステム幸手モデルにおけるエコーの活用」 【ハンズオン】 講演後、Miruco と膀胱ファントムを使用したハンズオンを通じて会場と議論する。</p>	